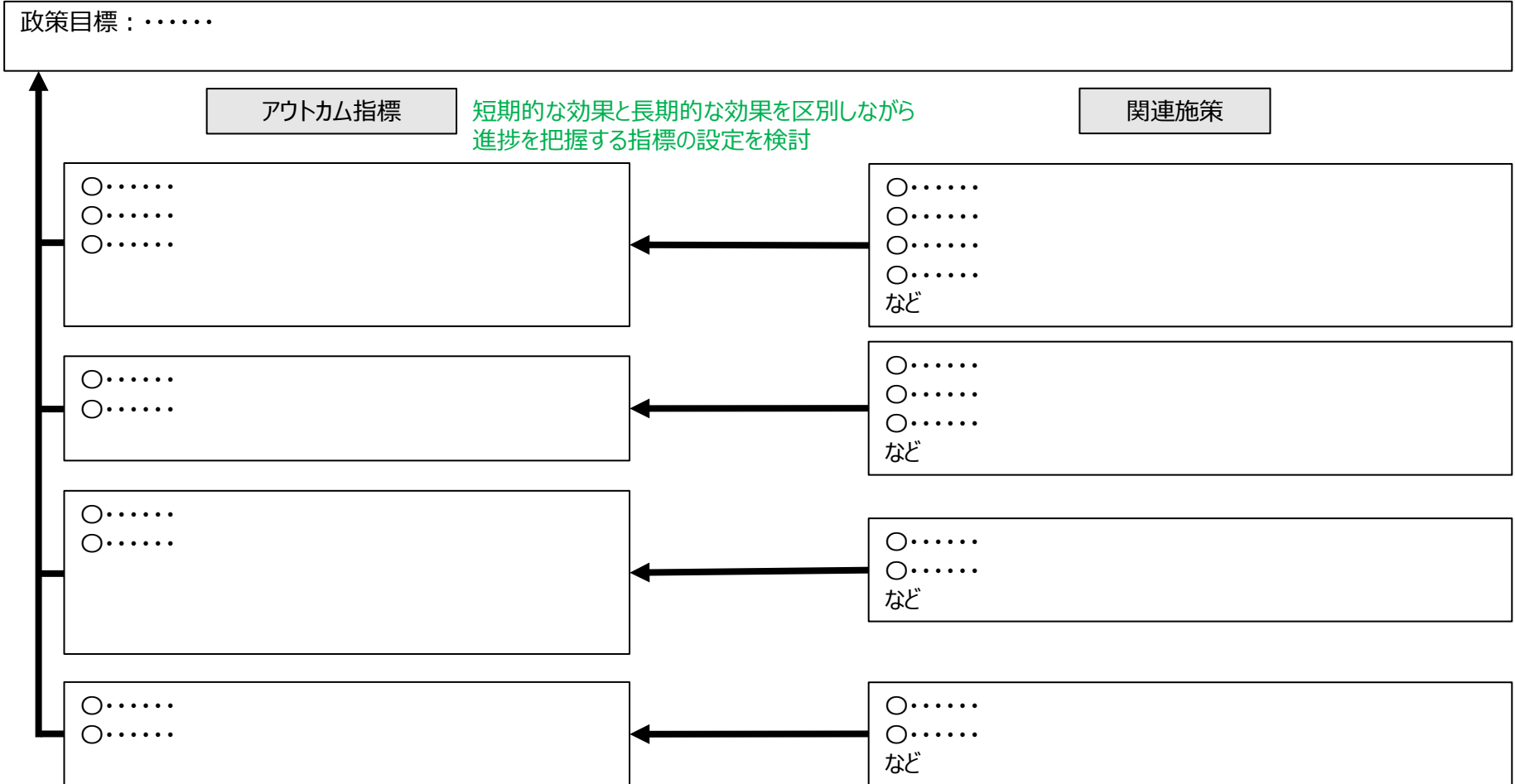


各テーマについて、今後の議論を通じて深掘りしていくことを想定(2ページ以内に収める必要はない)。

## 【重要政策・計画名を記載】

### 1. 政策体系の概要 政策目標、関連するKPI、施策をツリー形式で整理



### 2. 検証事項

エビデンス整備方針の「検証事項」を踏まえて記載

**3. 分析・検証方法、用いるデータ等** エビデンス整備方針に記載した内容を深掘り

	確認するエビデンス等	分析・検証方法	用いるデータ等
A	〇〇と△△の因果関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇と△△の間の因果関係に係る先行研究のサーベイを実施。</li> <li>・XXの変動要因の詳細を分析。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・XX問題に関する国内外の先行研究</li> <li>・政府統計の調査票情報、行政記録情報</li> </ul>
B	XX支援策が□□に与える効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇プロジェクト」（仮称）を通じて、XX支援分野において、先進的な取り組みを実践するモデルを探索し、調査・分析・研究を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介入群は「〇〇プロジェクト」（仮称）の参加者から、対照群は政府統計の調査票情報からパネルデータを収集。</li> </ul>

**4. 分析・検証体制** エビデンス整備方針に記載した内容を深掘り

- ・（A）の分析・検証においては、民間事業者に先行研究のサーベイを委託。エビデンスが不足している分野については、XXアドバイザリーボードの構成員と連携してデータ収集、分析・検証を行う体制を構築。
- ・（B）の分析・検証においては、「〇〇プロジェクト」（仮称）を通じて調査・分析・研究を実施。△△総研を事務局としたうえで、□□大学（●●教授）と共同研究を行い、事前の調査設計から事後的な分析・検証までを実施。

**5. ロードマップ** エビデンス整備方針に記載した内容を踏まえて工程化

分析・検証	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度以降
A. ロジックモデルの有効性	先行研究のサーベイ	データ収集（行政記録情報のオープン化を含む）		ロジックモデルの見直し
		分析・検証		
B. 各種施策の効果	「〇〇プロジェクト」（仮称）の調査設計	データ収集（介入群と対照群）		施策の改善
		分析・検証		

**6. エビデンスの政策見直しへの活用方法** 新規に記載

当該エビデンスを〇〇審議会にフィードバックし、「△△実行計画」の進捗管理や、居住地域・所得階層などの属性の違いを踏まえた効果的なXX支援策の実践に活用。